

若者目線で足利の魅力発信

帝京大学宇都宮
キャンパス学生 インスタグラムで



フィールドワーク最終日、市内のカフェをめぐり帝京大学宇都宮キャンパスの学生たち(珈琲蔵で)

うえで、9月からコロナを考慮し、小人数のグループを編成してフィールドワークを開始。写真撮影などを行い、掲載記事を熟考したうえで10月から「ashikagastrory」(あしがが・ストロリー)と題して投稿を開始した。

これまで足利織姫神社、あしががフラワーパーク、饗阿寺、織姫公園、名草殿神社などの観光スポットや着付け体験の様子、カフェ

は笠原さんを含め4人が足利を訪れた。当日はカフェめぐり中心。「若者に人気のおしゃれなカフェ」といいますが、おしゃべりが抽象的でよくわからないというのを聞きます。何が人気なのかをSNS発信を通じて分析したい」と学生たちは意気込んでいた。

分析結果は県への最終報告が終了したのち、足利市にも提供して観光振興に役立ててもらおう考えた。

帝京大学宇都宮キャンパスの学生が足利を舞台にコロナ禍での観光地支援プロジェクトとして、写真・動画共有SNSのインスタグラムを活用して若者向けの観光情報を発信する取り組みを行っている。これまで(12月10日現在)の投稿数は52。若者目線で書かれた記事とともに足利の名所やカフェ、飲食店などの写真が紹介されている。

ラム・インスタという分析ツールを利用し、若者に人気の投稿やアクセス時間帯などを分析してアフターコロナでの効果的な観光情報発信のあり方を提案することが目的。

ゼミ生のうち3年生12人が栃木県大学地域連携事業の採択を受け、足利市を担当している。足利が地元の笠原胡桃さん(3年)が映像のまち構想などの取り組みを紹介しながら

取り組んでいるのは経済学部地域経済学科・五艘みどり准教授のゼミに所属する2、3年の学生。プロジェクトでは情報の発信と合わせて、インスタ